

【研究一様式1】

「平成31年度研究実践園研究事業」実施計画書

園名	札幌市立もいわ幼稚園	園長氏名	笹山 雅司
研究協力園 研究協力校 連携大学	藻岩南小学校 増子 義仁先生（三里塚小学校校長）		
研究主題 研究副主題	「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 思いや考えを伝え合いながら遊ぶ子を育む		
研究の目的	・研究実践園として、「幼児期に育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえて、「思いや考えを伝え合う」姿を育むための、幼児に必要な経験と教師の援助について実践研究を行い、南区の幼保小の関係者・地域の方・保護者に発信し、共有する。		
研究内容・方法	<p>(1) 事例研究 保育実践の幼児の姿を視点に沿って話し合い、主題に向かうためにどのような援助や環境構成が有効かを導き出す。(VTRも必要に応じて活用) 視点：①幼児が主体的に関わり、興味関心を広げることのできる教師の援助・環境構成 ②幼児が思いや考えを伝え合い、遊びが広がったり、深まったりするための教師の援助・環境構成</p> <p>(2) 週案にて、『伝え合い』につながる姿のエピソードを話し合う。</p> <p>(3) 環境の見直し 講師を招き、実際に園庭の自然環境を見ながら、環境の活用の仕方について学び、視点に沿って環境の見直しを行っていく。</p> <p>(4) 指導計画見直し 事例などの話し合いをもとに、指導計画を見直し検証していく。(教育推進部との連携)</p> <p>(5) 保護者が園の保育に参加、あるいは参観する機会、夏休み、冬休みを活用し、事後に「子どもがどのようなことに心を動かし表していたか」「保護者はどのように受け答えをしたか」「そのときの子どもの反応」などを紙面に記録して提出してもらおう。その際、常に『まほうのかいわ』を意識できるようにリーフレットを活用していく。</p>		
公開保育等	ソニー幼児教育支援プログラム 実践提案研究会 【日時】 8月30日(金) 9:00~16:20		
助言者			

【研究一様式2】

「平成31年度研究実践園研究事業」実施報告書

園名	札幌市立もいわ幼稚園	園長氏名	笹山 雅司
研究協力園 研究協力校 連携大学	藻岩南小学校 増子 義仁先生（三里塚小学校校長）		
研究主題 研究副主題	「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」 思いや考えを伝え合いながら遊ぶ子を育む		
研究の成果	<p><研究の視点></p> <p>視点① 幼児が主体的に関わり、興味関心を広げることのできる教師の援助・環境構成</p> <p>視点② 幼児が思いや考えを伝え合い、遊びが広がったり、深まったりするための教師の援助・環境構成</p> <p><研究の方法></p> <p>① 事例研究・保育打合せ</p> <p>② 環境の見直し</p> <p>③ 保護者との取組</p> <p><研究のまとめ></p> <p>○事例の話合いを通して、教師が言葉でやり取りすることのみを求めるのではなく、幼児が表出していることをまずは受け止めるなど、個々の発達に大切にしたい援助に立ち返りながら保育にあたることができた。そのことが幼児が思ったことを教師に表す、頼るなどしながら遊びを楽しむ姿に繋がった。</p> <p>○個々の遊びの興味関心やおもしろさを互いに知り、遊びの目的を共有できるよう写真を用いてドキュメンテーションを作成した。このことは、互いの思いや考えを分かり合う、伝え合う、遊びの目的を達成するためにも有効であった。</p> <p>○講師の先生をお招きし、鳥の餌台や池の活用法、樹木や植物の特徴等、園庭の環境の活用の仕方について具体的に話を聞くことができた。</p> <p>○保護者との取組では、「まほうのかいわ」のリーフレットの振り返りの視点を明確にして保育参加や行事の取組の際に記入を依頼することで、親子で伝え合う楽しさや大切さなどを感じられる機会となり、子どもの伝えたい思いの高まりなどが感じられた。</p> <p><課題・次年度へ向けて></p> <p>○今年度は抽出児研究であり、話し合いを積み重ねることができたが、全体的な学年の育ち、保育全体としての子どもの育ちや遊びの援助などについては至らなかった。次年度に向けては教育課程で押さえられていることを踏まえながら各時期に大事な環境構成・援助のポイントを明確にすることで、園の保育の質の向上につなげたい。</p>		

